



巻頭特集

歌で豊かな人間を育み、歌で感動を分かち合う

豊中少年少女合唱団

合唱という集団芸術、そして異年齢交流を通して、心を育成する。
 ここは、子どもたちがイキイキ輝きながら大きく成長できる場所だった。



はまぐち さくらこ
濱口 櫻子さん
 (中3・ソプラノ)
 「『豊少』では、学校とは違う
 友達ができるの嬉しい!」



かまだ えみか
鎌田 笑美花さん
 (高3・ソプラノ)
 今年で卒団となるが「今後も
 合唱はずっと続けたいです!」



きたじま みつき
北島 美月さん
 (小6・メソアルト)
 「難しい歌も、練習を重ねると音
 が取れるようになって楽しい!!」

♪ 音楽的に豊かな歌を
 子どもの成長の滋養に

『豊少』は、全国的にも有名な『豊中混声合唱団』の姉妹合唱団として、言葉に伴った音楽を、幼い頃から好きになって欲しいとの願いを込めて2001年に誕生。設立当時から、学校では合唱部がほとんど減り、子どもたちが合唱をしなくなっていた。「詩を味わいながら表現し、聴く人々へメッセージを届けるのが合唱。決して1人ではできない、みんなで作り上げる、集団芸術です。青少年にとって、大変有益なんです!」(西岡先生)。また、『豊少』は、いつまでも人の心に残る、本物の歌を厳選して歌うことを大切にしている。「子どもらしい歌も楽しいで

『豊少』は、子どもたちが地域や社会に関心を持つ機会も多く設ける。昨年は豊中市の『豊泉家』グループのイベント「百歳クラブ名豊会 尊敬と感謝の集い」で、百歳を迎えた皆さんへ歌を贈った。その場にいた誰もが『豊少』の美声に目を細めていたそう。子どもたちの声には、人に感動や癒しを与える効果があるのでしょう。

『豊少』での活動を通じ 社会への関心を高める

『豊少』が大切にしている活動。小1〜高3のメンバーで構成される『豊少』。取材中も小さな子をお姉さんが優しく世話するシーンが何度もあった。団長を務める鎌田笑美花さんも「色々な世代の子と関わるのが楽しい。みんな本当に可愛くて大好き!」と笑顔。年齢の異なるメンバーとの集団活動を経て社会性を養う。これも『豊少』が大切にしている活動だ。



歌詞の意味を自ら考え 気持ちを乗せて歌う

子どもたちが、柔らかな声で歌います。その心地よさに身を委ねていると、「はい、止めます!」。指揮を執っていた西岡茂樹先生の、口調は柔和ながらも熱い激が飛ぶ。空気が一瞬で引き締まった。「歌詞の、あの町で生まれて、あの町で、どこだろう?」「君と出会う、君って、誰かな?」。子どもたちが歌っているのは、合唱曲『群青』。ご存知の読者も多いだろう。東日本大震災による津波で仲間を失い、さらに福島第二原発事故の影響で避難を余儀なくされ、全国散り散りになってしまった『小高中学校』(福島県南相馬市)の生徒たちの思いを歌い綴る曲だ。西岡先生は、子どもたちにゆっくり語りかけるように話す。「福島の海岸を思い浮かべながら、気持ちを込めてね」「何も考えずに歌ってはダメ。意味をちゃんと考えよう」。再び歌い始めた子どもたちの声は「温度」を帯びた。大好きな友と離ればなれになってしまった『小高中学校』の生徒たちの深い悲しみ、



豊中少年少女合唱団 音楽監督・指揮者
西岡 茂樹さん
 「関西合唱連盟」理事、「大阪府合唱連盟」副理事長。「豊中混声合唱団」等多くの合唱団で指揮者を務める。

取材協力

豊中少年少女合唱団
 HP: <http://homepage1.nifty.com/nishioka/toyo/>

出演予定
 10/29(土)中央公民館まつり(中央公民館 多目的ホール)他

新入団員募集中
 楽譜が読めなくても大丈夫! 詳しくはHPにて!



「豊泉家」グループのイベントで、「ふるさと」や「夕焼け小焼け」の歌を披露。会場は温かい雰囲気包まれた

ね」と西岡先生は振り返る。また、原爆で亡くなった方々への鎮魂と平和への思いを込めたコンサート「八月の祈り」に、2007年から連続出演。阪神・淡路大震災時の支援への御礼も込め、東日本大震災の復興支援コンサートにも積極的に出演している。幼い世代の子たちにとって、このようなチャリティーの意味は完全に理解できていなくてもいい。しかし、もう少し大きな経験をしたということに気づくのだろう。



そして「必ずまた、愛するふるさと・南相馬市で会おう!」という希望を情感豊かに表現する。その日の練習会場・『長興寺会館』の二室を、まるでコンサート会場のように感動で包みこむ……。

今回取材したのは、豊中市を中心に、吹田市・豊能郡・大阪市等から集まった45名の子どもたちが、毎週土曜、楽しく厳しく練習に励む児童合唱団『豊中少年少女合唱団』(以下『豊少』)だ。

